

船木校区まちづくりタウンミーティング 開催結果報告書

開催日時 令和4年8月1日月曜日
場所 船木公民館2階会議室
司会・進行 船木校区連合自治会 石川副会長
参加者数 男 33人 女 4人 合計 37人

支援員名 (近藤 晃弘) (新元 一司) (秦 正道)



1. 市の重点事業に関する質問

(星加 船木校区連合自治会長)

「河又東平線」は大規模落石が発生し、当分の間通行止めとなっているが、復旧の目途はどうか？

(石川市長)

時間を要することになるが、復旧工事は今年度中に行う予定である。

2. 校区課題

課題名 (① 船木校区の今後の活性化について)

説明、要望事項 (船木校区連合自治会長 星加勝一)

校区役員の高齢化、固定化、なり手不足解消、また地域の魅力発信のために、校区役員

の連絡調整や校区行事等の広報手段として SNS、HP などを活用できる人材を養成してほしい。

回答 （市民環境部長 長井秀旗）

デジタル人材の育成教室については、今年度、県及び県内市町共同モデル事業として、地域コミュニティ団体等を対象に、初心者向けスマートフォン教室の実施やデジタル手段の活用講習などを実施予定であり、スマホ教室にお申込みいただきました船木校区さんでは、9月、10月に船木公民館で実施する予定である。また、市とソフトバンク（株）との包括連携協定に基づく取り組みとして、現在、市民を対象にスマホの使い方教室やスマホ操作等の個別相談を出張で実施しているため、興味関心のある方はぜひ参加、利用いただきたい。

また、現在、市と自治会における提出書類のやり取りは、紙ベースが基本であるが、提出様式のダウンロードや電子データのメール送付など、性質上、実施可能なものについてはデジタル化を進め、自治会役員等の負担軽減を図りたい。

HP や SNS などを活用できる人材の育成については、現在、宮西校区及び中萩校区の2校区において、持続可能な地域づくりと地域課題の解決に向けた取り組みを進める、地域まちづくり組織の形成等のモデル事業を進めている。両校区では、これから取り組んでいく事業を検討しているが、様々な媒体を活用しての地域の情報発信、人材バンクの設立などの地域の人材育成や人材発掘の取り組みなどが重要事業として取り上げられている。今後は、モデル事業の成果や具体的な取組内容などについて、さらには他市の先進的な取り組みについて、連合自治会などの場で情報共有を図り、議論を進めていくことで、側面的に地域のデジタル人材の育成を支援していきたい。

課題名（② デマンドタクシーの利用について）

説明、要望事項 （船木校区連合自治会長 星加勝一）

住友別子病院や愛媛労災病院に直通で行けるようにしてほしい。松山市の小野・久米地区で今年5月、定額制の乗り合いタクシー「チョイソコおのくめ」のサービスが開始された。地区内の病院やスーパー、会員の自宅、賛助会員の事業所などを停留所とし、会員は月額3千円で何度でも停留所間をタクシーで移動できる。新居浜市でも定額で近くの郵便局やコンビニなどチョイソコへの外出に対応してほしい。事前予約しなければならないので、改善してほしい。デマンドタクシーの利用拡大に向けて広報を行ってほしい。

回答 （経済部長）

デマンドタクシーは、路線バスを補う移動手段として、この船木校区では市内でもいち早く平成23年1月に運行を開始し、利用者等のご要望をいただきながら、実施主体の「新

居浜市地域公共交通活性化協議会」での議論を経て、運行区域、予約方法等を見直しし、現在の形となっている。現在、船木校区では595人の方に登録、利用いただいているが、更なる利用拡大に努めていきたい。

新たな取組として、今年度から国のデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用したデマンドタクシーの予約がスマホで可能となり、AI技術を活用して配車するといったシステムを導入し、これまでデマンドタクシーの運行をしていなかった川西地区で試行運行を行うこととしている。今後は、試行の結果を踏まえて市内全域へ展開することで利便性の向上を図るとともに、市内の交通情報を一元化し、わかりやすく提供できるシステムの整備にも取り組むこととしている。

デマンドタクシーの行先の拡大については、川西地区を含めて4つの地区の運行が可能となれば、新居浜駅などの主要な交通結節点などでの乗り継ぎなども可能となるため、市内全域で、デマンドタクシーを利用した移動が可能となるので、着実に取り組みを進めていきたい。

チョイソコの導入の可能性については市でも調査研究を行っているが、現在のところ、デマンドタクシーでの移動を中心として、拡充をさせていく方が望ましいと考えている。

予約時間については、平成25年10月からそれまでの1時間前までの予約を、現在の30分前までの予約と変更している。現状では、迎えに行くための準備等に一定の時間を要することから、難しいものと考えている。

利用拡大に向けた広報への要望については、出前講座や市政だよりなどを通じて広報するとともに、福祉部や警察とも連携して、車等の移動手段を持たない方や運転免許返納者への周知なども行っており、引き続き、利用拡大に向け、様々な手段を使って広報に努めていきたい。

3. その他

質疑応答（要約）

（質問者）

令和5年度からスポーツ庁の方で、部活動の地域への移行を提言しているが、新居浜市の取り組みはどうか？

（石川市長）

新居浜市では具体的な方針は決まっていない。新居浜市の中学校の部活動において、団体競技の成立自体が難しくなっているため、国の方策も見極めながら、当面は地域で拠点を決めて、合同チームをつくるという方策や指導者についても地域に移行という方針になるのではないかと考えている。

(質問者)

自身の母親もデマンドタクシーを多く利用しており、タクシーを予約したこと自体を忘れていたこともあるが、タクシー会社の方も親切丁寧に対応してくれている。川西地区の導入も検討されているが、新居浜駅を起点として、船木校区から新居浜駅へ行き、新居浜駅から川西地区でのデマンドタクシーが利用できるようなになれば、すごく便利になるので、是非前向きに取り組んでもらいたい。(回答不要)

(質問者)

自治会員からは、空家問題の苦情要望が増えており、草や樹木を放置しているので、その度に自治会が空き家の持ち主を調べて対応している。高齢化、人口減少も進んでおり、今後ますます空き家が増えてくる。

空き家を売りに出さない方も多く、売りに出さないのは制度上(税制)の問題もあるのではないかと思われるので、空き家の対応、施策について今後、ご検討いただきたい。

(回答不要)

(石川市長)

自治会の高齢化、自治会加入率の低下、人手不足等の問題は、船木校区だけではなく全市的な問題となっている。デジタル化の推進は、役員負担軽減策の一つであるので、取り組んでいきたい。

デマンドタクシーは、川西地区に行けるような解決策を検討していきたい。交通対策の解決は難しい問題であるが、高齢者や障がいをお持ちの方など交通弱者の方にもどう対応していくか、福祉施策の一つであると思われるので、しっかりと検討していきたい。

空き家問題は、市でも空き家対策班を設置して取り組んでいる。本当に危険な建物については、所有者が撤去しない場合は強制的に撤去する対応もしている。また、草木が生い茂っていることについては、市の担当者から所有者に連絡をすることも対応できるので、是非市にご相談いただきたい。